

ビフレンダー BEFRIENDER

第 80 号

2013年 12月 発行

□大阪自殺防止センター創立 36 周年

来年（2014年）1月20日、大阪自殺防止センターは開設して満36年を迎えます。これまで、運営や財政支援そして何よりも電話相談ボランティアとしてセンターの活動を支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。

毎年センターの創立記念日（アニバーサリー）をお祝いしています。今年は1月25日（土）に開催いたします。時間、会場は事務局にお問い合わせください。現在の電話相談ボランティア、支援ボランティアに加え、支えてくださった皆さま方のご参加を大歓迎いたします。



□歳末募金のお願い

大阪自殺防止センターは、多くの皆様方に支えられ、自殺を考えるまでに苦悩する方々からの電話相談を受け続けてきました。2012年度の事業収益を見ると、皆様方の支えもあり寄付金が16.4%を占めていますが、半分は助成金等が占めています。自殺対策緊急強化基金があと1、2年でなくなるといわれる中、資産も減少しており、いろいろ収益向上と経費節減に努めていますが、運営資金の確保については苦慮しているところです。

自殺防止活動を今後も永く継続していくためには、財政基盤の安定を欠かすことはできません。日頃より一方ならぬご支援をいただいている皆様、重ねて運営資金のお願いをする

ことは心苦しい思いですが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

国際ビフレンダーズ・大阪自殺防止センターは、今年3月認定NPO法人に認定されたことにより、ご寄附いただく個人は寄附金控除が受けられることとなり、また法人は損金に算入する枠が広がるほか、相続税の課税対象から外れるなどの優遇措置が受けられることとなりました。

《個人の場合》

センターからお渡しする領収書を添付して確定申告すると、所得税と地方税(自治体により異なります。)を併せて寄附金額の最大50%が控除されます。

《法人の場合》

一般寄附金の損金算入限度額とは別に、特定公益増進法人に対する寄附金の額と合わせて、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。

納税にあたっては税理士さん、税務署とご相談ください。

重ねてのお願いで恐縮ですが、ご寄付いただけそうな企業などお心当たりがあればご紹介ください。センターからご依頼にまいります。

□「よりそいホットライン(フリーダイヤル)」2012年度報告が発表されました。

当センターは、一般社団法人社会的包括支援センターが開設するフリーダイヤル相談電話「よりそいホットライン」に全国の支援団体の1つとして参加し、「生活や暮らしに関する相談」「外国語による相談」「性暴力やDVの相談」「性別や同性愛に関わる相談」「自殺念慮のある方の相談」のうち「自殺念慮のある方の相談」のチャンネルを担当していますが、その活動の2012年度報告書がまとめられました。

本報告書は、2012年4月からの1年間のよりそいホットラインの電話相談活動を分析しています。この1年間にホットラインにかけられた電話件数(総呼数)は、約1,088万件ですが、回線が繋がったのが約38.5万件(接続完了数)。接続完了率は、たったの3.54%に過ぎません。いかにこのようなサービスが必要とされているのかがわかります。

報告書の中からは、「誰かと話したい」という孤立状況の相談者が圧倒的に多い」という事実が浮かび上がっており、周りの誰にも相談できない人の多さを示しています。

「自殺念慮のある方の相談」にかけてくる相談者は全体の十分の一ですが、40代を中心とする働き盛りの世代が多いようです。約4割は就労しておらず、3割強が一人暮らしです。働くことに関しての悩みは多く、本ホットライン以外の相談経験を半数以上の人を持っていました。うつに悩む人が全体に比して多くなっており、希死念慮の最大の要因は「病気」です。意志を確認できた人の中では当然ながら9割を越える割合で自殺念慮があったとのこと。

「孤立した人を地域でどうささえるか」「どこの支援先にもつなげようのない人たちをどうするのか」が問われており、新しい支援の仕組みづくりが必要とされているとまとめられています。内容は当センターで相談電話を受けている話とほぼ重なっているように思えました。

□国際ビフレンダース・全国ディレクター会議を開催

7月15日（月・祝）名古屋に、「岩手」「東京」「あいち」「熊野」「大阪」「宮崎」の自殺防止センターのディレクターが集まりました。ディレクターだけが集まるのは初めてです。今年の1月から集まる計画を立てていましたが、日程が合わず、そのうち岩手、東京、宮崎のディレクターが任期を迎え交代しました。やっと実現したこの会議、交代した3センターは新旧2人の参加となりました。

午前中は各センターの活動状況の報告と共有、午後から今後の取組みについて話し合いました。以下は今後の取組みについて話し合った内容です。

（1）「全国自殺防止センター・フリーダイヤル相談」

9月（自殺予防週間）と3月（自殺対策強化月間）

これまで東京センターの取組みに全国のセンターが協力していましたが、これからは全国自殺防止センターの取組みとしました。

（2）全国自殺防止センターの合同ワークショップ

ビフレンダース憲章の「我々は他のセンターと相互にサポートし合い、情報共有とネットワーク形成・活動に全力を傾ける。」に則って、来年開催します。時期や場所、テーマは各センターに持ち帰り話し合っ今後決めます。

（3）自殺防止センターの日本連盟（仮称です）

組織づくりや予算を決めるより、どのセンターにかけても同じ姿勢で電話を聴くよう、研修教材を統一することなどが課題となりました。

今回の話し合いはここまででした。今後も全国の自殺防止センターが相互にサポートし合い、情報共有とネットワーク形成にむけて協力・連携関係を強めていくことを確認して会議を終えました。



□12月からのボランティア養成講座に向けて

ゲートキーパー入門「傾聴」講座を開催

今年の秋期のボランティア養成講座は、12月6日から毎週金曜日に開催いたします。講座を開催するにあたって、11月15日午後6時半から「自殺について」「ゲートキーパーとは」などの話と「傾聴」はロールプレイを取り入れてゲートキーパー入門『傾聴』講座を開催しました。告知は読売新聞に掲載していただき、自殺防止活動やボランティア養成講座に関心をもって下さる方々に参加をしていただきました。

養成講座は約4ヶ月間の体験学習中心のロールプレイ研修と約10ヶ月の実習で構成されています。センターの仕事は電話相談だけではありません。遺族の会や、広報、募金活動などのスタッフとして自殺防止活動を支えるたくさんの方のお力が必要です。関心ある方は、ぜひご連絡下さい。

◇韓国からの訪問がありました。

11月12日火曜日、韓国の慶尚南道社会福祉協議会海外研修団の訪問がありました。

大学の先生や社会福祉施設の経営者など7名で、電話相談や、遺族の会などのセンターの活動状況を説明しましたが、韓国も自殺の多い国で、その多さが社会問題になっており、当センターの活動状況に強い関心をもたれ熱心に質問をしておられました。30分の予定が、1時間近くになりましたが、両国の自殺に対する考え方の違いと共通性、自殺防止活動の必要性などいろいろ意見交換もできセンターにとっても実りのある時間となりました。



～自死遺族の集いのご案内～

【大阪自殺防止センターの「わかちあいの会」について】

土曜日の集い

毎月第1土曜日 午後2時～4時
地下鉄長堀橋駅近く
「長堀安田ビル」
参加費：300円
(1月・5月は休会)

水曜日の集い

毎月第3水曜日 午後5時～7時
JR茨木駅近く
「渡辺クリニックデイケアルーム」
参加費：300円

詳しくは事務局におたずね下さい。

Befrienders
Worldwide
volunteer action to prevent suicide

認定 NPO 法人

国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-11-9 長堀安田ビル9F

<http://www.spc-osaka.org/>

事務局 電話：06-6260-2155 FX06-6260-2157

(月～金;午前10時～午後5時)